

研究・調査報告書

報告書番号	担当
336	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Cessation of alcohol drinking, tobacco smoking and the reversal of head and neck cancer risk. 禁酒、禁煙と頭頸部腫瘍リスクの反転について	
執筆者	
Marron M, Boffetta P, Zhang ZF, Zaridze D, Wunsch-Filho V, Winn DM, Wei Q, et. al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Epidemiol. 2010;39(1):182-96.	
キーワード	
疫学、頭頸部腫瘍、禁止、飲酒、喫煙	
要 旨	
目的： 以前の研究から禁煙または禁酒は頭頸部腫瘍を減らすことが報告されてきた。しかしながら、リスクが減少するのはこれらの習慣を禁止してどれくらい経過してからなのか、また一度も喫煙や飲酒をしたことのない者の水準までリスクは最終的には低下するのかどうか、は明らかではない。	
方法： International Head and Neck Cancer Epidemiology Consortium の症例対照研究における個々のデータを共有した。データとしては禁酒についての 13 研究 (9167 の症例と 12593 の対照) および禁煙についての 17 研究 (12040 の症例と 16884 の対照) が利用可能であった。ロジスティック回帰分析を用いてオッズ比 OR を計算し、頭頸部腫瘍のリスクにおける禁煙および禁酒による効果を推定した。	
結果： 1-4 年の禁煙は頭頸部腫瘍のリスクを減少させ[OR 0.70、信頼区間 (CI) 0.61-0.81 喫煙者と比較して]、20 年以上の禁煙により喫煙経験のない者の水準までリスクが低下した (OR 0.23、CI 0.18-0.31)。飲酒については 20 年以上の禁酒後にのみ頭頸部腫瘍リスクにおける有益な効果が得られ (OR 0.60、CI 0.40-0.89、飲酒者と比較して)、一度も飲酒経験のない者の水準まで達した。	
結論： 禁煙および禁酒により頭頸部腫瘍の進展が予防されることを支持する結果が得られた。	